



いわて生活協同組合

# 社会活動・ 環境活動報告書

2018年度の取り組み

## Contents

第1章 復興支援活動

第2章 食の取り組み

第3章 社会貢献活動

第4章 組合員の活動

第5章 暮らしを支える事業

第6章 環境活動

# Contents — 目次 —

## 〈 社会活動報告 〉

目次 協同組合について	1
ごあいさつ	2
いわて生協の成り立ち・事業概要	3

### 第1章 復興支援活動

東日本大震災、台風10号被災地支援	5
-------------------	---

### 第2章 食の取り組み

地産地消、食の安全への取り組み	7
顔と暮らしみえる「産直」運動	9

### 第3章 社会貢献活動

だれもが安心して暮らせる地域・社会に	11
--------------------	----

### 第4章 組合員の活動

暮らし、平和を守る運動、子育て応援、福祉活動	13
------------------------	----

### 第5章 暮らしを支える事業

店舗事業、共同購入事業、エネルギー事業	15
共済事業、葬祭事業、福祉事業	17

## 〈 環境活動報告 〉

### 第6章 環境活動

環境理念 環境方針	19
CO <sub>2</sub> 排出量削減の取り組み	20
原子力発電に依存しない事業	21
廃棄物の削減・リサイクルの取り組み	22
組合員活動の取り組み	23
環境に配慮した商品の利用普及	24
環境負荷とリサイクルフロー	25
環境活動のあゆみ	26

## 協同組合について

### 【定義】協同組合とは

協同組合とは、人びとの自治的な協同組織であり、人びとが共通の経済的・社会的・文化的なニーズ（要望）と願いを実現するために自主的に手をつなぎ、事業体を共同で所有し、民主的な管理運営を行うものです。

### 【価値】協同組合にとって大切なものは

協同組合は、自分たちの力と責任で、民主的に、平等で公平に、そして連帯してものごとをすすめていくことを基本理念とします。また先駆者たちの伝統にしたがって、協同組合の組合員は、倫理的な価値観として、誠実でつつみ隠さず、社会的責任と他者への思いやりを持つことを信条とします。

この協同組合の「定義・価値」は、1995年の国際協同組合同盟（ICA）100周年記念大会で、21世紀にむけて、世界の協同組合の指針として採択され、現在もその基礎となっているものです。  
※定義と価値は、JC総研発行「新協同組合とは（再訂版）」より引用。

## 編集方針

いわて生協では、2007年から「社会活動・環境活動報告書」の発行を始めました。報告にあたっては、いわて生協の基本的な考えにそってすすめている事業・活動の内容を、その進捗状況とともに掲載しています。

現在、いわて生協がすすめている「2020年ビジョン」で掲げた「助けあい、支えあい、ともにつくる暮らしの安心」の実現に向けて、どんな取り組みを行っているのか、活動の一部ではありますがみなさまにお伝えできれば幸いです。

### ■ 報告対象期間

2018年度（2018年3月21日～2019年3月20日）の内容です。一部、2019年6月までの活動や将来の目標も報告しています。

### ■ 発行 2019年6月

### ■ Webアドレス

<https://www.iwate.coop/about/csr/>  
本報告書のほか過去の報告書もホームページに掲載、ダウンロードできます。

### ■ お問い合わせ先

#### いわて生活協同組合

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢 220 番地 3  
TEL.019-687-1321 (代)

## 「助けあい、支えあい、 ともにつくる暮らしの安心」をめざして

2018年度は、いわて生協「第8次中期計画（2016～18年度）」の最終年度として、ベルフ北上のオープン、セリオホール3館の新増設など、計画にそって暮らしの願いを着実に実現してまいりました。環境の取り組みでは、いわて生協の電力使用量の107%相当を再生可能エネルギーで調達し、環境にやさしい電力を組合員に供給する電気小売事業もスタートするなど、「原発に依存しない事業と暮らし」を大きく前進させることができました。さらに、小規模多機能型居宅介護事業を開始し、「ゆりかごから墓場まで」、生涯を通じて利用できる最小限の事業のつながりを実現することができました。

さて、東日本大震災から8年が経過しました。被災地では中心市街地の形成など、復興が着実にすすみ、仮設住宅は2020年度末に解消される計画です。しかし、心の復興や新しいコミュニティづくりにはまだ支援が必要です。また、なりわいの再生もこれからが正念場と言えます。いわて生協では、これからも「買い物支援」「なりわいづくり支援」「笑顔と元気を届ける活動」「震災を風化させない活動」の4つの柱にそって、変化する被災地・被災者に寄り添った支援活動を続けてまいります。

今、私たちの暮らしや地域を取り巻く状況は、ますますきびしさを増しています。10月からは消費税10%への増税が予定されていますが、消費税は所得が低い人ほど負担が重い不公平な税金であり、10%への増税は格差と貧困をさらに広げるだけです。また、TPP11や日欧EPAが相次いで発効され、今後もさらなる輸入自由化がアメリカなどから迫られる中で、日本の農林漁業や食料、食の安全、また地域経済にも大きな影響を与えることは必至です。平和をめぐつても、集団的自衛権行使の閣議決定以降、「戦争ができる国づくり」が着々とすすめられ、その総仕上げとして、平和憲法・9条を変えるための「国民投票」の実施も現実味を帯びてきています。

私たち生活協同組合は、こうした社会の変化から生まれる様々な暮らしの願いを、協同の力で事業化し、運動も行いながら実現する生活者の組織です。今世界中で取り組みが広がっている国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」では、そのベースに「地球上の誰ひとり取り残さない」という理念があります。この開発目標には、私たち生協の理念や取り組みの多くが重なっています。このことから、私たちはこの間の取り組みにあらためて「確信」と「誇り」を持ち、「2020年ビジョン」で掲げた「助けあい、支えあい、ともにつくる暮らしの安心」をめざし、その仕上げとしての「第9次中期計画（2019・2020年度）」に取り組んでまいります。

みなさまにはいっそうのご支援、ご協力をお願い申し上げます。



いわて生活協同組合  
理事長  
飯塚 明彦

# 合併契約書調印式

みんなの力でいわて生協をつくりあげましょう

岩手県学校生協宮古地域・岩手県民生協・北上市民生協  
釜石市民生協・けせん生協・盛岡市民生協

1989年10月1日



県内生協の合併・合流でいわて生協が誕生



2019年3月23日、宮古市魚菜市場に出店。

## いわて生協の成り立ち・事業概要

いわて生協が誕生して28年一。

組合員は25万5千人を超え県内世帯の48%と、その輪は着実に広がっています。

### 「盛岡安く牛乳を飲む会」から「生協」へ

1969年一方的な牛乳の値上げに反対し、盛岡市上田地区のお母さんたちが「盛岡安く牛乳を飲む会」を設立し、牛乳の共同購入を始めました。400世帯1千本から始まった牛乳の共同購入は、お母さんたちの仲間づくりにより急速に広がり、卵の共同購入、サリチル酸の入らない清酒を直買する運動にも発展しました。一方でコープ商品や生協運動の学習も積み重ね、同年お母さんたちによる地域生協「盛岡市民生協」が誕生しました。

その後、釜石市や北上市、大船渡市にもお母さんたちによる地域生協がつけられていきました。

### 1990年3月「いわて生協」が誕生

県内5つの地域生協の合併と、岩手県学校生協宮古地域組合員の合流で、1990年3月21日「いわて生協」が誕生しました。

1. ますますきびしくなる組合員の暮らしを守り、より豊かなくらしを実現していく。
  2. そのためにも競争に負けない力強い生協をつくっていく。
  3. 停滞する岩手の経済や、過疎化・高齢化がすすむ地域社会に役立つ生協をつくっていく。
- この3つをめざしてスタートしました。

### 数字で見るあゆみ

■ 組合員数	■ 出資金	■ 供給高
1990年度(誕生時) 8万8,166人	1990年度(誕生時) 13.1億円	1990年度(誕生時) 184.1億円
2000年度 13万7,567人	2000年度 36.4億円	2000年度 372.9億円
2005年度 17万9,555人	2005年度 56.7億円	2005年度 363.9億円
2010年度 19万9,279人	2010年度 69.4億円	2010年度 352.8億円
2015年度 23万3,208人	2015年度 82.5億円	2015年度 386.2億円
2018年度 25万5,212人	2018年度 92.2億円	2018年度 424.9億円

2020年ビジョン  
～私たちのありたい姿～  
「助けあい、支えあい  
ともにつくる  
くらしの安心」

- 1 私たちは、ふだんのくらしにいつそう役立つ事業を広げ、生涯をととして組合員のくらしに役立つ生協をめざします。
- 2 私たちは、だれもが安心して暮らせる社会と、人と人とが支えあいつながる地域づくりをめざし、「明るく!元気に!楽しく!感動する活動」をすすめます。
- 3 私たちは、協同のすばらしさに確信を持つ常勤者をつくり、地域から信頼され、評価される生協をめざします。また、組合員のくらしの願いにこたえるために、健全経営を維持発展させます。

## 2018年度の事業・決算概要

2018年度は、「第8次中期計画(16～18年度)」の最終年度として、ベルフ北上の出店をはじめ、セリオホール3館の新設、福祉事業の新事業や電気小売事業の開始など、くらしの願いを着実に実現しました。供給高は予算を下回りましたが、最終的な当期末処分剰余金は予算を上回る2億3千万円を確保し、組合員への出資配当を実現することができました。

## 事業概要

店舗事業(16店舗)、共同購入事業(9共同購入センター)、共済事業(1共済センター)、葬祭事業(11館)、福祉事業(2事業所)、住まいと暮らしのサービス事業

関連会社 / (株) コープトラベルいわて  
(株) コープ東北保険センターいわて支店

### いわて生協のプロフィール ※すべて2018年度末(2019年3月20日)の数字です。

■ 組合員数 25万5,212人	■ 世帯加入率 48.4%	■ 出資金 92億1,895万円	■ 供給高 424億8,597万円
■ 共同購入利用人数 7万3,057人	■ 常勤者(職員)数 2,192人		

### ◆ 店舗



- ・ベルフ八幡平
- ・ベルフ仙北
- ・コープ花巻あうる
- ・ベルフ牧野林
- ・マリココープドラ
- ・ベルフ北上
- ・コープ高松
- ・コープ西ヶ丘
- ・コープアテルイ
- ・ベルフまつその
- ・ベルフ西町
- ・コープ関コルガ
- ・ベルフ青山
- ・ベルフ魚菜市場(2019年3月出店)
- ・ベルフ山岸
- ・コープチェリオ

### ■ 共同購入センター



- ・久慈センター
- ・盛岡南センター
- ・宮古センター
- ・にのへセンター
- ・花北センター
- ・釜石センター
- ・盛岡北センター
- ・県南センター
- ・けせんセンター

### ● 葬祭会館



- ・セリオホール牧野林
- ・セリオホールみやこ
- ・セリオホールみたけ
- ・セリオホール磯鶏
- ・セリオホール緑が丘
- ・セリオホール釜石
- ・セリオホール中野
- ・セリオホール岩泉
- ・セリオホール仙北
- ・セリオホール水沢
- ・セリオホール矢巾

### 事業所と世帯加入率

事業所	世帯加入率
◆ 店舗	60%以上
■ 共同購入センター	50%以上
● 葬祭会館	40%以上
	30%以上
	20%以上
	10%以上





移動店舗「にこちゃん号」で被災地の暮らしを支援。



毛糸のモチーフをつなげたひざ掛けをプレゼント。

## 第1章

# 復興支援活動

「がんばろう！岩手 築こう未来」

変化する被災地の要望に寄り添い、東日本大震災・2016年台風10号被災地支援活動を継続しました。また全国の災害への支援にも、組合員や全国の生協と協同して取り組みました。

### 東日本大震災・台風10号支援活動

「買い物支援」「なりわいづくり支援」「笑顔と元気を届ける活動」「震災を風化させない活動」の4つの柱にそって取り組みました。

### 毎日の暮らしを支える買い物支援 8年間で54万人が利用

#### 移動店舗と無料お買い物バス 6万6千人利用

移動店舗「にこちゃん号」は、組合員の募金と全国の生協の支援で2012年から開始。現在も4台が宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の災害公営住宅など67ヶ所を運行しています。宮古市、山田町から店舗へ運行する「無料お買い物バス」と合わせ、2018年度は6万6千人（前年比89%）が利用しました。8年間でのべ54万人が利用し、買物が不便な被災地の暮らしを支えています。

#### 共同購入「復興支援サービス」 「新・被災者サポート値引き」 7千人利用

共同購入では、個人宅配手数料を減免する支援を継続しました。沿岸被災地（内陸避難の方含む）対象の「復興支援サービス」と、2016年台風10号被災地で罹災証明書をお持ちの方が対象の「新・被災者サポート値引き」を実施。2つの制度の登録人数は7,337人（前年比101%）となりました。

### 被災地メーカー・生産者を商品利用で応援 8年間で30億円の利用

#### 事業での商品利用おすすめ 4億6千万円

被災地の生業・仕事づくりを応援しようと、被災地のメーカー・生産者の商品を店舗・共同購入で積極的におすすめしました。18年度の利用は4億6千万円（前年比96%）、8年間では30億円となりました。被災地のグループや福祉作業所の手づくり品販売も継続し、2018年度は292万円（前年比90%）、8年では5千万円の利用となりました。

#### 5店舗で 復興支援・地産地消フェスタ

5店舗で「復興支援・地産地消フェスタ」、マリンコープドラで「復興応援まつり」を開催し、9万3千人（前年98%）が来場しました。沿岸地域を含むのべ274の業者・団体が出店、沿岸の出店業者からは「利用してもらうことが励みになる」と喜ばれました。



### 多くのボランティアで笑顔と元気を届ける活動 8年間で3万3千人参加

#### 「ふれあいサロン」に2千人参加

「お茶を飲みながらほっとしてほしい」と、2011年6月から開催する「ふれあいサロン」。2018年度は宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市で263回開催し、1,728人が参加しました。8年間では3,591回に3万2,911人が参加し、1万6千人のボランティアが開催を支えました。仮設住宅の集約・閉鎖に伴い、19年度の開催は5会場となり、年度内に活動を終了します。

「バスボランティア」は宮古市、大槌町、陸前高田市で7回活動し158人が参加、8年間では188回に6,704人が参加しました。

#### 広がる「食の支援」に514人参加

「ひとりになって料理をする気になれない」などの声に、食を大切にしている生協として何かしたいとの思いから、食の支援に取り組んでいます。「ふれあいサロン」での昼食会や「生協料理サロン」（味の素ファンデーション「赤いエプロンプロジェクト」との共催含む）、台風10号被災地の岩泉町で「年末昼食会」を開催し、514人が参加。「いっしょに食べるとおいしい」「家でも作りたい」と喜ばれています。2013年度から取り組んだ「3行レシピ集」は、第16号まで計6万部を発行し、活動を終了しました。

### これからも東日本大震災を忘れない 8年間で2億8千万円の募金

#### 「毛糸モチーフ」5千枚をつなげて ひざ掛けに

おうちでできる支援として、「毛糸のモチーフづくり」を組合員のみなさんに呼びかけ、5,688枚が寄せられました。これをボランティアがつなぎ237枚のひざ掛けにし、年末昼食会などで台風10号・東日本大震災被災地域の方々にお届けしました。

#### 復興支援募金1,124万円に

支援活動を支える「復興支援募金」は、共同購入・店舗を中心に募金が寄せられ、4年連続で1千万円を超えました。

#### 2018年度復興支援募金と活用状況

募金 助成金	組合員支援募金	1,124万3,258円
	全国の生協からの募金	1,342万6,426円
	計	2,466万9,684円
使途	ふれあいサロン・昼食会	682万7,104円
	リフレッシュツアー・復興応援ツアー	43万8,640円
	バスボランティア・年末食事会	100万6,864円
	グループ活動補助	176万1,219円
	被災地支援活動助成金	302万4,200円
	その他(子ども支援など)	139万2,817円
	計	2,708万1,362円
収支	不足分は復興支援活動基金を活用	▲241万1,678円

全国の自然災害に対し、これまでの支援への恩返しの意味もこめて支援に取り組みました。

#### 西日本豪雨災害支援活動

#### 支援募金 836万円

組合員に呼びかけて支援募金に取り組み、836万円が寄せられました。全国の生協からの募金は7億9千万円となり、日本生協連を通じて被害のあった10府県などに贈呈しました。

#### 広島に職員・組合員を派遣

これまでの支援への恩返しの意味もこめて、組合員・職員ボランティアによる「ひつまみ隊」を広島に派遣。仮設住宅でひつまみなどをお振る舞いし、喜ばれました。また、災害ボランティアセンターへの職員派遣も行いました。



西日本豪雨被災地支援として、広島の仮設住宅でひつまみをお振る舞い。

#### 北海道胆振東部地震支援

組合員による支援募金は361万円が寄せられ、北海道生協連を通じて被災された方や被害にあった農業生産者へ贈呈しました（全国生協からの募金総額3億6千万円）。



「ジュシーでおいしい!」と人気の「アイコーブポークウインナー」。



「アイコーブ岩手県産小麦の雑穀ブレッド」の開発に、組合員が参加。

## 第2章 食の取り組み

岩手の豊かな生産物を地元で消費する「地産地消」を広げようと、県内企業や生産者、組合員と一っしょに取り組んでいます。また、安全な商品をお届けするため、全国・東北の生協と協力して取り組んでいます。

### アイコーブ商品・アイスタイル商品

#### 地産地消をめざすオリジナルブランド

アイコーブ・アイスタイル商品は、いわて生協が開発・供給しているオリジナルブランドです。できるだけ岩手県産・国産原料を使用し、主に岩手県内のメーカーと共同で開発した商品です。開発には、組合員も参加しています。

東日本大震災以降は特に、「地場産品の利用を広げることで岩手を元気にしよう」と、利用普及に積極的に取り組んでいます。

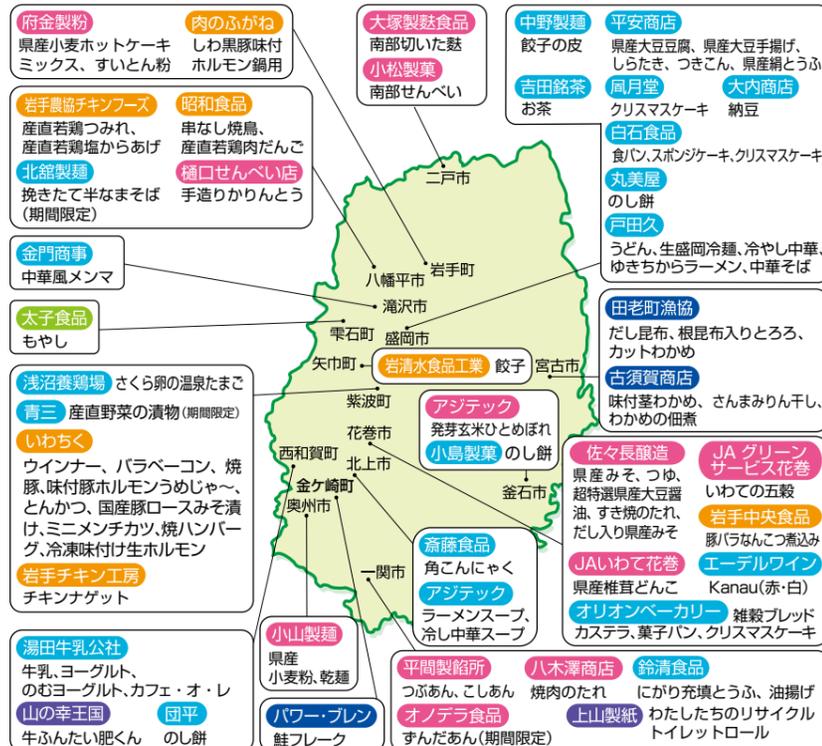
#### 開発のコンセプト



できるだけ岩手県産の原料を使用し、岩手県内品質の商品です。開発には組合員も参加し、味や使い勝手などを確かめています。



食品添加物など、いわて生協の品質管理基準を満たしながら、より求めやすい価格を重視した商品です。



### アイコーブ商品4品目を開発・改善

2018年度は、アイコーブ商品3品目を開発し、1品目を改善しました。開発・改善には組合員が参加し、よりよい商品にしようと意見を出し合いました。

#### 開発 アイコーブ岩手県産小麦の雑穀ブレッド

岩手県産・国産の4種類の雑穀を配合。岩手郡コープ組合員が開発に参加し、食感や雑穀の配合比率を決定。製造はオリオンベーカリー(花巻市)。



### 商品のよさと利用を広げる組合員の活動

こ〜ぶ委員会では、選んだ商品について学習し、そのよさを伝える「これ、いいね商品」の活動に取り組んでいます。2018年度は、主体的な学習や食べ比べ、産地・工場見学などを工夫して取り組みました。またこうした学習をいかし、「秋のコープのつどい」や店舗で商品の紹介や試食おすすめに取り組めました。



「秋のコープのつどい」で商品を試食し、よさを広げました。

### 地産地消の取り組み

#### 復興支援・地産地消フェスタ 5会場に8万6千人

「岩手のものを利用して岩手を元気に」と2005年から「地産地消フェスタ」を開催。震災後は「復興支援」も掲げています。2018年度も岩手県の各振興局のご協力をいただき、ベルフ牧野林、ベルフ八幡平、コープアテルイ、コープ関コルザ、コープ花巻あうるの5店舗で開催しました。のべ235の業者・団体が出店し、計8万6千人(前年比99%)が来場。地元や沿岸被災地の特産品の利用につながりました。

### 安全な商品をお届けするための取り組み

#### 工場点検や商品検査の取り組み

食の安全を確保し、食品事故を未然に防止しようと取り組んでいます。2018年度はアイコーブ商品製造委託メーカーの工場点検(60工場)、商品検査室での商品微生物検査(2,926件)を行いました。またコープ東北と連携し、重大商品事故につながるお申し出への監視対応などに取り組めました。

#### 放射性物質自主検査

原発事故後、いわて生協は国や県に放射性物質の検査・対策の強化を求める一方で、行政が検査しない産直品・アイコーブ商品、また行政検査の補完とし

### 地域の特産品を広げる取り組み

岩手の豊富な生産物や商品の利用を広げようと、幅を広げた地産地消の取り組みとして、行政や生産者団体などの協力をいただき、店舗や共同購入で県内の特産品をご案内しています。2018年度は「みやこまいもの市」(2008年開始)を共同購入で1回特集したほか、「にしわが山の市場」(2009年開始)をベルフ牧野林に加えベルフ北上でも開催(計3回)。また、県南地域の障がい者施設で構成する「あべじゃネット」による「あべじゃネットフェア」(2009年開始)をコープアテルイで開催しました。

市場流通品の検査に取り組んでいます。

2018年度はアイコーブ商品・アイスタイル商品、産直品、市場流通品の計173品目を検査し、いずれも検出限界値(10Bq/kg)未満でした。

### 日本生協連「食事中的放射性物質摂取量調査」を8年継続

原発事故後、日本生活協同組合連合会が継続している食事調査は、18年度は全国18都県232世帯(いわて生協10世帯)が協力しました。その結果、すべてのサンプルで放射性セシウムは検出限界値(1Bq/kg)未満でした。



産直野菜生産者、いわい農産研究会のみなさん（一関市）



毎年、組合員から産直牛乳生産者へ搾乳に使うタオルをプレゼント。

## 顔とくらしの見える「産直」

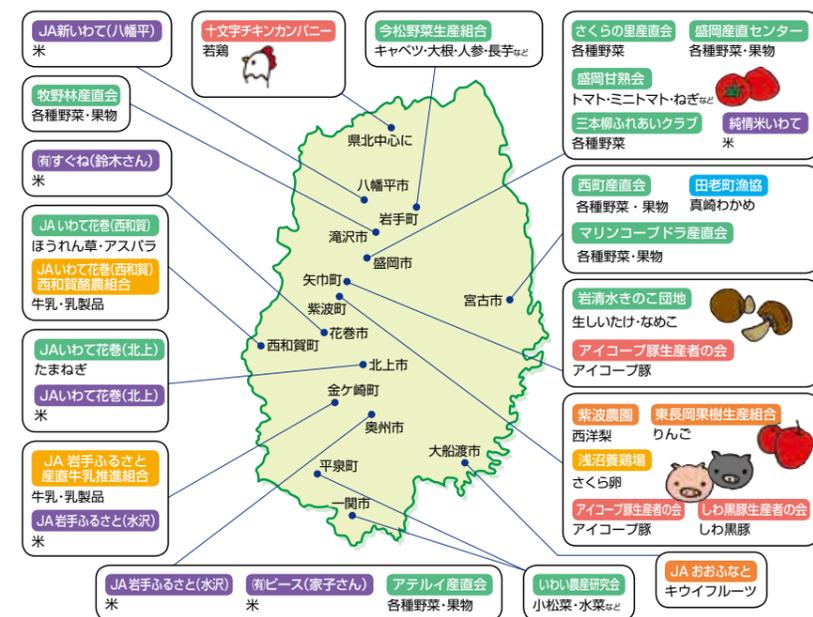
### 組合員と生産者が交流し、日本の農林漁業を守る運動

いわて生協の産直は、安全で新鮮、良質な生産物を求める組合員と、農林業の発展や健全な生産方法をめざす生産者が交流し、よりよい農水畜産物を作りながら、日本の食糧と農林漁業を守っていく運動です。

### 2018年度「産直」の実績

- 供給高  
**25億5,733万円**（前年+ 454万円、100.2%、供給構成比13%）
- 産直提携団体  
**30団体**
- 農産産直コーナー設置店舗  
**9店舗**

### 県内30産地と産直提携



2019年3月現在



今松野菜生産組合とこ〜ぶ委員のみなさんが畑で交流。

### いわて生協の産直三原則

- ①産地と生産者が明確であること
- ②栽培、飼育方法が明確であること
- ③組合員と生産者が交流できること

### いわて生協の産直基準

- ①組合員の多様な参加を強め、組合員の願いを商品と事業に反映します。
- ②岩手の農林畜水産業を守り、その発展に貢献します。
- ③組合員と生産者が「対等」「共同」「公平」の立場で、課題へ取り組みます。
- ④産地・生産者、生産・流通方法を明確にします。
- ⑤記録・点検・検査を行い、より確かな産直商品を届け続けます。
- ⑥持続可能な生産とともに、事業の環境負荷低減にも取り組みます。

### 産直野菜農薬基準

- ◆排除農薬/使用禁止する11農薬  
NAC、ジメトエート、2.4PA、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、マラソン、クロルピクリン
- ◆排除目標農薬/  
排除に向けて計画的に努力する6農薬  
キャプタン、ダイアジノン、ベノミル、バラコート、リニュロン、アトラジン

### 「産直収穫祭」を店舗・共同購入で開催

産直品のよさと利用を広げる「産直収穫祭」を、店舗・共同購入で毎年開催しています。2018年度は店舗・共同購入で年3回実施。組合員もいっしょにおすすめ活動に取り組みました。卵・米以外の産直品は順調に出荷されたこと、また新店のベルフ北上でも産直品のおすすめ活動に取り組んだことから、「産直収穫祭」の利用は前年比113%と大きく伸びました。



### 組合員と生産者の交流活動を多彩に

#### 産直生協牛乳ふるさと訪問

産直牛乳の産地を組合員家族がたずねる「産直生協牛乳ふるさと訪問」を西和賀町、金ケ崎町の2会場で開催し、85人が参加。牛舎で子牛にミルクをあげたり、生産者といっしょにお昼を食べながら生産の努力や思いを知り、交流を深めました。



重たいミルクをがんばって持ち上げました。

#### 産直米交流会

花巻市、奥州市水沢区、江刺区の3会場で開催。129人が生産者の指導のもと、田植えや田んぼの生き物観察、稲刈りの体験、農業施設の見学などを行いました。参加した組合員からは「生産者の大変さがわかった」「お米を大事に食べたい」と好評でした。



田植えや稲刈りを体験し、米づくりの大変さを知りました。

### 組合員の代表が栽培方法などを点検する「公開安全確認会」「業務確認会」

産直品の栽培・飼育方法などの約束事が守られていることを、組合員も参加して確認する「公開安全確認会」を2003年度から毎年開催。2018年度は29産地に組合員162人（前年比113%）が参加し、生産者の努力への理解が広がりました。



「業務確認会」は、生協が産直品のよさをきちんと伝えて供給しているかを組合員・生産者が確認する取り組みとして2004年度から行っています。店舗など7事業所を41人が確認しました。

### 生産者・組合員・常勤者が交流し話し合う「産直事業活動交流会」

産直事業のさらなる発展をめざし、生産者・組合員・常勤者が一同に会し、次年度の計画を話し合う「産直事業活動交流会」を2003年度から毎年開催しています。2018年度は207人が参加し話し合いました。産直生産者・組合員による事例発表には、「次年度の活動にむけてとても参考になった」という声が多く寄せられました。

### 岩手の食と農、くらしを守る立場からTPPに反対

いわて生協は、日本の農林漁業、食の安全・食料を守る運動に取り組んでいます。「いわて食・農ネット」や県内の諸団体といっしょに、新しい遺伝子操作技術「ゲノム編集」の学習会やTPP問題について自治体・農協要請行動に取り組みました。また、輸入自由化政策のもと、十分な議論もなく廃止された、米などの主要農産物の「種子法」に対し、「種子を守る県条例を求める請願」を岩手県議会に提出し、採択されました。



諸団体とともに「種子を守る県条例を求める請願」を提出。



首長との懇談会を毎年開催しています（矢巾町長との懇談会）



被災地で活動する11団体に助成金を贈呈。

### 第3章

## 社会貢献活動

「だれもが安心して暮らせる社会・地域」をめざして、行政や諸団体のみなさんといっしょに取り組みをすすめています。

### 高齢者見守り活動

#### 異変対応は7年間で100件に

いわて生協は県内の全市町村と協定を締結し、共同購入・個人宅配、夕食宅配サービスを利用される高齢者を対象に、配達時気になることや異変があった場合、自治体が指定する窓口へ連絡する「見守り活動」を行っています。

異変への対応事例は2018年度17件、7年間で100件となり、組合員ご家族などから感謝の声をいただいています。

### 滝沢市と包括連携協定を締結

2019年1月、滝沢市と包括連携協定を締結しました。地域づくりや災害対応など、さまざまな分野で連携した取り組みを行っていきます。いわて生協が包括連携協定を締結するのは、これが初めてです。



いわて生協で初めての包括連携協定を滝沢市と締結。

### 首長懇談会13市町で

だれもが安心して暮らせる地域づくりをめざして、2018年度も13市町で首長懇談会を開催しました。「買い物、食事を支援する取り組み」を主なテーマに懇談しました。また、沿岸の自治体では、復興に向けた地域の要望についても話し合いました。

#### 首長懇談会開催自治体(開催順)

- ・大船渡市 ・滝沢市 ・奥州市 ・北上市 ・宮古市
- ・釜石市 ・花巻市 ・久慈市 ・八幡平市
- ・一関市 ・二戸市 ・矢巾町 ・盛岡市

### 「釜石市ラグビー子ども未来基金」へ寄付

東日本大震災被災地で唯一の開催となる、釜石市での「ラグビーワールドカップ2019」を応援しようと、2019年3月、「釜石市ラグビー子ども未来基金」へ100万円を寄付しました。



釜石市での「ラグビーワールドカップ2019」を応援。

### 自治体・関係団体の審議会で提言

住みよい地域づくりをめざし、組合員理事を中心に岩手県や県内市町、関係団体の審議会や委員会に委員として参加し、生活者の視点で提言を行っています。

2018年度は「岩手県水産審議会」「岩手県食の安全安心委員会」など26の委員会に参加しました。

### コープフードバンク11団体に3.8トンの食品提供

東北の生協が運営する「コープフードバンク」では、お取引企業から余剰食品などの無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織などへ無償で提供する活動を行っています。こうした団体への支援を通して生活困窮者などへの支援、また食品の無駄をなくすことにもつながります。

2018年度は、新たに奥州市・二戸市社会福祉協議会など3団体と協定を結び、11団体に3.8トン（前年+1.5トン）の食品等を提供しました。活動を支えるサポーターは個人会員255人（前年+28人）、法人会員3社に増えました（東北全体では319団体に提供。サポーターは848人、121社）。



2018年12月、二戸市社協との協定を締結。

#### フードバンク協定締結団体(締結順)

- ・宮古市社会福祉協議会
- ・大船渡市社会福祉協議会
- ・特定非営利活動法人くらしのサポーターズ
- ・岩手保健院
- ・花巻市社会福祉協議会
- ・北上市社会福祉協議会
- ・釜石市社会福祉協議会
- ・一関市社会福祉協議会
- ・奥州市社会福祉協議会
- ・特定非営利活動法人インクルいわて
- ・二戸市社会福祉協議会

#### 法人会員(岩手県内)

- ・(株)事務機商事 ・丸庄クリーニング(株) ・メフレ(株)

### 被災地支援活動助成金

#### 11団体に302万円

多面的な被災地支援活動を実現するため、被災地で支援活動に取り組む団体・NPOを支援する助成金制度を2016年度に設立しました。2018年度11団体に計302万円を助成しました。

#### 被災地支援活動助成金贈呈団体(活動地域)

- ・シンセサイザー演奏を聴く会（沿岸地域）
- ・CAPリアス（沿岸地域）
- ・宮古読み聞かせの会 おどっつあんS（宮古市）
- ・子育てサークル きっぴんきっず（大船渡市）
- ・Home of Wisdom（陸前高田市、大船渡市、岩泉町）
- ・おおつちパラエティショー実行委員会（大槌町）
- ・もっちいと森の仲間たち（陸前高田市、岩泉町）
- ・一般社団法人 ちむ麻の葉（陸前高田市）
- ・細浦地区再生協議会（大船渡市）
- ・特定非営利活動法人バクト（陸前高田市）
- ・陸前高田子ども図書館ちいさいおうち（陸前高田市）

### 障がい者のくらしや活動を応援

視覚障がいのある組合員の買い物支援として、共同購入事業では、カタログを読み上げたCDをお届けする「リーディングサービス」を実施。現在41人が利用しています。

障がい者のスポーツ活動を応援しようと、「スペシャルオリンピックス日本・岩手」のオフィシャルサポーター、2017年度設立の「岩手県障がい者スポーツ協会」の賛助会員として協力しました。また、多様な人々がともに働き続けられる生協をめざし、障がい者雇用を積極的にすすめています。2018年度は新たに14人を採用し、47人の雇用（前年+7人）となりました。

### ユニセフ募金に協力

#### これまでの募金総額は1億2千万円

世界の子どもの命と健康を守るユニセフ募金に取り組んでいます。2018年度は「東ティモール指定募金」を中心に、街頭募金活動「ハンド・イン・ハンド」や書き損じハガキ募金などに取り組みました。また、店舗で回収するペットボトルキャップの益金を、ユニセフ募金に寄付しています。

2018年度の募金は216万円（前年+42万円）、これまでの募金総額は1億2,197万円となりました。





気軽に立ち寄り、笑顔が広がる「ふれあいサロン」。



多彩な企画で子育てを応援「ハピママレッスン」。

## 第4章

# 組合員の活動

「助けあい、支えあい、ともにつくる暮らしの安心」をめざして、組合員みんなで取り組みをすすめています。

### くらし・平和を守る運動を推進

#### 平和憲法・9条を守る運動



小学生に紙芝居で平和の大切さを伝えた「夏休みピースアクション」。

「戦争ができる国づくり」がすすめられ、その総仕上げとして平和憲法・9条を変える動きが強まっています。諸団体といっしょに、国会で改憲発議をさせないための請願署名に取り組み、2万1,385筆を集約しました（県内で16万8千筆）。また改憲の目的を知り、国民投票で意思表示できる人を広げようと、学習会（11会場208人参加）や「憲法カフェ」（100か所で開催）に取り組みました。

平和の大切さを学ぶ「夏休みピースアクション」（53企画）、「ピースアクションinヒロシマ」「沖縄戦跡・基地めぐり」（計6人の組合員を派遣）にも取り組みました。

#### 子どもの医療費助成制度拡充を求める運動

諸団体と一緒に、子どもの医療費助成制度の拡充を求めて岩手県などへの要請に取り組みました。この間の運動もあり、19年度より小学生の医療費助成の現物給付化、全市町村で中学校卒業までの助成が実現しました。

#### 消費税増税に反対する運動



藤原崇衆議院議員に、消費税増税中止を求める声を訴えました。

いわて生協は、組合員のくらしと地域を守る立場から、消費税増税に反対しています。消費税の負担をまとめる「消費税しらべ」（105人参加）の結果を伝えながら、消費税の問題点を「秋のコープのつどい」（5,842人参加）で学習しました。増税中止を求める声が3千件以上寄せられ、岩手県選出国會議員に要請し切実な声を訴えました。

また、諸団体と学習会や県・市町村議会請願に取り組んだほか、「10月消費税10%ストップ！ネットワークいわて」の結成に参加しました。

#### 灯油運動

灯油の適正価格と福祉灯油の拡充を求めて、岩手県生協連などといっしょに、岩手県と岩手県議会に要請・請願を行いました。こうした取り組みもあり、岩手県から沿岸12市町への福祉灯油助成が8年連続で実施されました。

### 2万3千人の組合員参加で運営

より多くの組合員の参加で生協を運営しようと取り組みました。おうちで自主的に開催する「初夏のコープのつどい」は、2,632ヶ所に9,953人が参加し、過去最高の参加（前年比110%）となりました。会場で開催する「秋のコープのつどい」は5,842人（前年比99%）、「お茶会」は1,100ヶ所で開催し3,999人（前年比112%）が参加しました。また、計画づくりの場である「コープ懇談会」には2,064人（前年比106%）、「コープ総代会」には1,445人（前年比97%）が参加しました。

こうした話し合いの場への組合員の参加は、のべ2万3,303人（前年比106%）となり、運営や計画づくりに組合員の意見・要望をいかすことができました。



コープ懇談会では、生協への期待の声が多く寄せられました。

### 子育て応援活動に4千人参加

子育て世代（特に乳幼児を持つママ）の願いにそった活動「ハピママコープ」に、2018年度3,874人（前年比103%）が参加。年々参加が増え、子育て世代が生協を知る機会となっています。

#### ハピママレッスン

子育てママ対象の企画で、2014年度スタート。盛岡市、滝沢市、八幡平市、花巻市、北上市、奥州市、一関市、宮古市の10会場で開催し、179企画に1,100組2,461人（前年比102%）が参加。リフレッシュとママの交流の場として好評です。

また、園児・小学生対象の長期休み企画として、「おしごとたいけん」「おかいものたいけん」「キッズクッキング」を9企画開催し、175人が参加しました。

#### ハピママひろば

乳幼児親子の無料の遊び場として、盛岡市、滝沢市、奥州市、一関市の6店舗で142回開催しました。1,238人（前年比99%）の親子が参加し、遊びやおしゃべりを楽しみました。



無料の遊び場「ハピママひろば」で、工作を楽しみました。

### 安心して暮らせる地域をめざして 福祉活動に4千人参加

#### コープくらしの助け合いの会

「困ったときはお互いさま」の気持ちから、組合員どうし助け合う有償ボランティア組織として1992年発足。高齢者や産前産後の方などを対象に、家事・生活援助を行っています。2018年度は要望にこたえて二戸地域での活動がスタートし、15市町11支部に会員1,196人（前年比102%）、活動時間2万7,012時間（前年比108%）となりました。



#### ふれあいサロン、ふれあいお茶っこ会

地域でつながり交流する場として「ふれあいサロン」「ふれあいお茶っこ会」を開催しています。「ふれあいサロン」は、気軽に立ち寄り一息つける場として、1会場増えて盛岡地域5会場で55回開催。624人（前年比129%）が参加しました。

「ふれあいお茶っこ会」は、盛岡医療生協と共同で開催するミニデイサービス。盛岡地域17会場で186回開催し、2,372人（前年比111%）が参加しました。1回300円の参加費で、血圧測定やレクリエーション、昼食交流など、楽しい時間を過ごしています。



宮古市魚菜市場にベルフ魚菜市場をオープン。



個人宅配は、サポート制度で高齢者・子育て世代の買い物を応援。

## 第5章

# くらしを支える事業

### 店舗事業

#### くらしに役立つ「地域一番のお店」に

組合員みなさんに満足いただける売り場をめざして取り組んでいます。簡単な調理でおいしく食べられる商品、適量目の品揃え充実、健康志向や個食に対応した商品の取り扱いを増やしました。

また、北上ツインモールプラザ（さくら野百貨店）にベルフ北上をオープン。10年ぶりの北上のお店に、組合員から「生協の商品を手にとって買えるのがうれしい」と、喜びの声が多く寄せられました。

2019年3月21日には、宮古市魚菜市場にベルフ魚菜市場をオープンしました。

#### 高齢者へのお買い物支援 14万8千人が利用

##### 無料お買い物バス

盛岡地域6店舗への無料バス、宮古市・山田町から宮古店舗への無料お買い物バス、マリンコープドラと宮古駅間のシャトルバスの運行を継続しました。盛岡地域での利用が減少し、お買い物バス利用者数はのべ10万4千人（前年比93%）となりました。

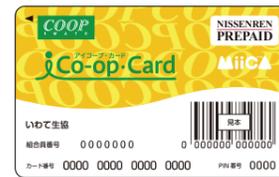
##### お買い物配達サービス

お店で購入した常温の商品をご自宅にお届けする「お買い物配達サービス」は、年間4万4千人（前年+284人、101%）が利用しました。

ふだんのくらしにいっそう役立つ事業、生涯をとおして組合員のくらしに役立つ事業をめざして、取り組みをすすめました。

#### 電子マネー付組合員カード 「アイコープ・カード」導入

組合員の要望にこたえ、電子マネー付組合員カードを導入しました。「支払いがスムーズ」「ポイントがたまりやすい」と好評ですが、保有人数は1万4,778人、支払構成比8.7%と、いずれも計画より低く、よさと利用を広げることが課題です。



#### 組合員の声 1万5千件を仕事改善に

お店の売場などで組合員から寄せられた、商品や店舗運営に関する声を「声の記録」で集約し、日常の仕事改善にいかしています。2018年度は1万4,907件の声が寄せられました。

区分	2018年度	2017年度	増減
意見・要望	5,675	4,640	+1,035
お問い合わせ	4,144	4,205	-61
おほめ・感謝の声	1,834	1,793	+41
商品・運営への苦情	1,223	890	+333
その他	2,031	53	+1,978
合計	1万4,907	1万1,581	+3,326

### 共同購入事業

#### 毎週の利用者は7万3千人に増加

商品案内チラシを見て注文いただいた商品を翌週お届けする「共同購入・個人宅配」の利用者は、7万3千人（前年比101%）を超え、県内世帯の14.4%（前年比0.1%）の利用に広がりました。組合員満足度の向上に向けて、食品カタログでは、乳幼児世代向け商品をまとめたページを新たにスタート。また、介護食の品揃えを増やしました。

#### 夕食宅配サービスは19市町で 1日2,300食をお届け

週5回、カロリーや塩分に配慮したお弁当をお届けする「夕食宅配サービス」（2013年事業開始）は、「人気メニューウィーク」などの取り組みで食数を増やし、19市町で1日2,297食（前年比108%）の利用に広がりました。

配達エリアを拡大し、新たに二戸市金田一地域や山田町での利用がスタートしました。また、利用者の要望にこたえ、生野菜サラダをリニューアルしました。



##### 夕食宅配サービス提供地域（一部展開地域を含む）

- ・盛岡市
- ・滝沢市
- ・八幡平市
- ・雫石町
- ・矢巾町
- ・紫波町
- ・花巻市
- ・北上市
- ・奥州市
- ・平泉町
- ・一関市
- ・二戸市
- ・一戸町
- ・久慈市
- ・宮古市
- ・山田町
- ・金石市
- ・大槌町
- ・大船渡市

### エネルギー事業

組合員の「住まいとくらし」を支えるエネルギー事業部を新設。灯油、電気小売、住まいと暮らしのサービスの3事業を行っています。

#### 生協灯油は総額4,277万円を還元

2018年度は、原油価格の下落を受けて価格を値下げし、県内市況の引き下げをリードしました。また、1～3月度の利用について1ℓ2.5円の還元を実現し、組合員のきびしい家計に貢献しました。

計画を上回って利用者を増やしましたが、暖冬と前年を上回る価格の影響で、配達量は2万9,344Kℓ（前年比90%）と減少しました。

#### 個人宅配サポート制度で高齢者や子育て世代のお買い物を応援

子育て中の方や高齢の方、障がいをお持ちの方などを対象に、個人宅配の配達料を優遇する「サポート値引き」制度は、3万472人（前年比104%）が登録、個人宅配登録者の61%が制度を利用しています。

##### 個人宅配サポート制度の登録人数

制度	登録人数	個配利用者に占める割合
高齢者サポート値引き お一人が70歳以上の夫婦世帯、 全員が70歳以上の世帯	10,660人	22%
復興支援サービス 新・被災者サポート値引き	7,337人	15%
子育てサポート値引き 母子手帳発行から満6歳までの お子さんがいる方	5,281人	11%
障がい者サポート値引き ご本人またはご家族が 障がい者手帳をお持ちの世帯	4,454人	9%
介護者サポート値引き ご本人またはご家族が介護認定を 受けている世帯	2,740人	6%
合計	30,472人	61%

#### 保育園で「交通安全教室」

地域貢献活動として、滝沢市の保育園で「交通安全教室」を行いました。子どもたちがトラックに乗り、運転席から見えないところがあることを学習。「トラックに近づかない」ことなどを約束し、先生方からも好評でした。





セリオホール水沢、矢巾を開設。



店舗共済カウンターは「ゆっくり相談できる」と好評です。

## コープのでんき「COCOENE」スタート！

原発に依存しないくらしを広げようと、再生可能エネルギーを積極的に取り入れた電気の小売事業を2018年6月より開始しました。コープのでんき「COCOENE」は、再生可能エネルギー比率80%（2018年度計画値）でみらいにやさしい「ソフトでんき」、電気料金と再生可能エネルギー比率の両方に配慮しくらしにやさしい「コスパでんき」の2種類から選べます。

2018年度の契約件数は2,462件と、計画を上回って広がりました。



## 共済事業

### 9千件の加入で契約件数11万件に

コープ共済は、全国の生協組合員の「助け合い」の制度として、手ごろな掛金で充実の保障を充実した保障のコープ商品です。

2018年度、コープ共済の新規加入は9,545件となり、契約件数は11万508件と11万件を超えました（前年比101%）。店舗では、ベルフ北上に4店目の独立型共済カウンターを設置し、気軽に相談しやすい環境を広げました。

### 9億5千万円の共済金をお支払い

コープ共済は、共済金のお支払いに価値を置き、請求漏れが発生しないように共同購入・店舗を通じて加入者に声かけを行っています。2018年度の共済金のお支払いは1万3,566件、9億4,573万円（前年比110%）となり、「組合員の暮らしを支える共済」の役割を果たしています。

### ランドセルカバー7,774枚を新入学児へ贈呈

子どもたちの交通事故を減らそうと、「コーすけ入りランドセルカバー」を希望する県内の小学校に贈呈する活動を、2015年度から行っています。2018年度は県内小学校の78%にあたる244校の新入学児童へ、7,774枚を贈呈しました。

#### 小学校からの手紙

蛍光色のデザインが運転手からも見やすく、1年生が安全に登下校するための一助となっています。また、カバーの材質が丈夫なため、ランドセルをきれいなままで使用することができています。保護者の皆様からも好評です。



## 葬祭事業

### 3ホールを新增設し、11ホールに

いわて生協の葬祭事業は、「人生最後の儀式だからこそ、自分たちがつくる生協で」「納得できる適正価格で」という組合員の願いから生まれ、1993年から事業を行っています。2018年度は組合員の要望にこたえて、水沢・矢巾に会館を新設し、緑が丘に第2会館を増設しました。県内11のセリオホール（葬祭会館）で、1,303件（前年比102%）の葬儀を施行しました。



## 福祉事業

### 小規模多機能型居宅介護事業を開始

介護事業への要望の高まりに対応するため、2018年度より、24時間・365日の在宅支援を行う「小規模多機能型居宅介護事業」を新たにスタートしました。小規模多機能型居宅介護「あい長橋町」には、事業開始から68件の相談が寄せられ、2018年度はのべ121人が利用しました。



「あい長橋町」では季節の行事や地域との交流を大切にしています。

### 「セリオ積立」1万2千件に

いつか訪れる“もしもの時”に備えて、計画的に積立を行っていく「セリオ積立」も、組合員の要望から生まれた制度です。2018年度は、新たに1,236件の申し込みをいただき、総件数は1万2,283件（前年比108%）になりました。また終活への関心の高まりにこたえ、「終活フェア」「終活フェア&葬祭展示会」、組合員活動での学習会などを開催し、728人が参加。「とても勉強になった」と好評でした。

### 介護・福祉センター「あい」サービス提供人数は6千人に

介護・福祉センター「あい」を移転・開所しました。新たな介護用品売場は買物カートなどを実際に試すことができ、「自分に合ったものを選べる」と好評です。在宅介護3事業の利用人数は、居宅介護支援2,326人（前年比96%）、訪問介護1,458人（前年比101%）、福祉用具レンタル2,183人（前年比102%）でした。訪問介護事業と福祉用具レンタルは利用が増えましたが、居宅介護支援の利用が減りました。

介護・福祉相談は120件（前年比167%）に増えました。また、地域福祉委員会と連携して「くらしと健康いきいきデー」を盛岡市内4店舗で8回開催しました。健康チェックや介護・福祉の相談、事業の紹介などを行い、毎回好評です。

### 南昌荘 開館からの入園者が30万人を超えました

1885年（明治18年）建造の南昌荘は、保存を望む多くの声にこたえ、いわて生協が保有し、維持管理と公開を行っています。盛岡市の保護庭園、景観重要建造物に指定され、庭園は国の登録記念物にも認定されています。

2018年度は、開館からの入園者数が30万人を突破し、記念のセレモニーを行いました。また「紅葉ライトアップ」などのイベントも好評で、年間入園者は1万6千人（前年比122%）となりました。

